



Title	人文社会科学研究者とオンライン学会
Author(s)	杉田, 米行
Citation	大阪外国語大学アジア太平洋論叢. 1997, 7, p. 237-243
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99758">https://hdl.handle.net/11094/99758</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 人文社会科学研究者とオンライン学会

杉 田 米 行\*

## I. H-USA

現在世界最大の人文社会科学系オンライン学会は1992年に発足したH-NET (Humanities and Social Sciences On-Line) です。現在70以上の分科会があり、世界70カ国以上に約5万名の会員数を誇っています。今回はその中でも大阪外国语大学アジア太平洋研究会がH-NETと共同運営をしている分科会の1つであるH-USA (外国におけるアメリカ研究分科会) を紹介致します。

### 1 H-USAへの参加方法

H-NETは非営利学術団体で、登録料・利用料などはすべて無料。必要なのは電子メールのアドレスだけです。まず電子メールの発信先に

[listserv@h-net.msu.edu](mailto:listserv@h-net.msu.edu)

と入力します。そして「主題」の欄は空白にし、本文に

subscribe H-USA [first name] [last name] [affiliation]

と入力します。

(例) subscribe H-USA Taro Yamada Osaka Gaidai U.

---

\*大阪外国语大学・地域文化学科・アメリカ講座

そして送信操作を行えば完了です。後は登録完了のメールを待ちます。不明な点は編集者の一人の杉田米行までご連絡下さい。

〒562 大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1  
大阪外国语大学アメリカ講座 杉田米行  
電話・ファックス：0727-30-5416  
電子メール：sugita@neti.com

## 2 H-USAの価値

A. アメリカに関する論文を書いていたり調べものをしていて、わからない点が出てきた時に、必要な資料の入手の仕方に関する情報が得られる。

(実例)

- \* クリントン大統領の1997年の年頭教書の全文を入手したかった。H-USAにその旨投稿すると、会員の方が24時間以内に全文を電子メールで送付して下さった。
- \* マーティン・ルーサー・キング牧師の有名な「私には夢がある」というスピーチのトランスクリプトを授業時に配布したかった。その旨H-USAに投稿すると会員の方が全文を電子メールで送付して下さった。

B. アメリカ研究に役立つCD-ROM、ソフトウェア、書籍のレビューをし、それに関して議論することができる。

(実例)

- \* 会員の方がベトナム戦争に関するCD-ROMのレビューを投稿された。その評価およびベトナム戦争の解釈や教え方などが議論された。

C. 米国をはじめ日本やその他の国で開催されるアメリカ研究関係の学会、講演、研究会などの情報交換ができる

(実例)

- \* 1997年1月にニューヨークで開催されたアメリカ歴史学会年次大会や1997年6月に愛知教育大学で開催されるアメリカ学会の年次大会に関する情報が掲載された。

\* 1997年度のアメリカ外交史学会で戦後アメリカのアジア政策に関するパネルおよび1998年1月にシアトルで開催されるアメリカ歴史学会でのパネルへの参加者募集が掲載された。またアメリカ史学会のCONNECTIONというパンフレットが全文掲載される。

D. 共同研究者、共同執筆者などの募集が掲載される。

(実例)

\* マルチメディアを利用した新しいアメリカ史の教科書作成のための執筆者募集やアメリカ史の著名な歴史家のバイオグラフィーを編纂するための執筆者募集が掲載された。

E. 留学先の選定やリサーチのために渡米する際に様々な情報を入手できる。

(実例)

\* 学部学生Xは日米関係・国際関係をアメリカの大学院で勉強したいと思いその選択に関してH-USAに投稿すると数多くの助言が送られてきた。

\* ラトガーズ大学所蔵のウォーヒーズ文書のリサーチをしたいと思いH-USAに投稿したところ、ラトガーズ大学図書館スペシャルコレクションの係りの人から直接メールをもらうことができ、資料の数、資料の内容、図書館の開館時間、資料複写などに関して貴重な情報を得た。そのためにリサーチは短時間で非常に効率よく行うことができた。

F. 自分の書いた論文や書評などを発表することができる。また、未発表の論文の場合はその一部を投稿して批評や意見を聞くことができる。

G. H-USAの会員を通じて世界的規模でアメリカ研究の仲間と知り合いになることができ、様々な情報交換が可能となる。

尚、1997年6月7日、愛知教育大学で開催されるアメリカ学会年次大会において現H-NET事務局長のリチャード・ジェンセン教授をお招きし、インターネット

とアメリカ研究および実際にパソコンを使ってのH-NET講習会が開催される予定になっております。詳細は大阪外国語大学アメリカ講座杉田までご連絡下さい。  
sugita@neti.com

## II. その他のH-NET分科会

H-NETには80以上の分科会があります。その一覧および詳細に関しては  
<http://h-net2.msu.edu>

をご覧下さい。今回はその中でH-USAと同じく大阪外国語大学アジア太平洋研究会が共同運営しているH-Japan（日本研究分科会）を簡単にご説明致します。  
参加の仕方はH-USAとほぼ同じで

[listserv@h-net.msu.edu](mailto:listserv@h-net.msu.edu)

宛に

subscribe H-JAPAN [first name] [last name] [affiliation]  
と入力します。

（例） subscribe H-JAPAN Taro Yamada Osaka Gaidai U.

H-Japanは日本研究の分科会で日本文化から昨今の教科書問題まで幅広いテーマで議論を行っております。H-Japanは英語と日本語両方が公用語となっており、日本語で投稿することも可能です。また大阪外国語大学の優秀な学生の助けを得て、日本人研究者にとって有益と思われるメッセージに関しては英語から日本語への翻訳サービスもしております。

この他にも外交・国際関係を扱うH-Diplo, アジア研究全般を扱うH-Asia, 女性学を扱うH-Women, 戦争研究全般を扱うH-Warなどほとんどの分野をカバーしております。

## III. DFSJ(Dead Fukuzawa Society Japan Forum): 日本語のみで世界の知識人と議論できるオープンフォーラム

最後に1997年2月11日に発足した非常に新しく画期的なネット上の議論の場をご紹介致します。カリフォルニア大学でチャルマーズ・ジョンソン教授の門下生を中心として英語で日本事情を議論するフォーラムがD F S (Dead Fukuzawa Society) として発足し、日米の知識人が様々な問題に関して日本に対して非常に批判的な意見が大勢を占めながら行われております。詳細は

<http://www.twics.com/~briank/fukuzawa.html>

をご覧下さい。

このD F Sに参加していた有志が「日本事情のことを話すのに英語だけで議論するのはおかしい。また、あまりにジャパンバッシングが激しすぎるので、眞の日本理解の妨げになる可能性もある。批判的な目をもちながらも冷静沈着な目で日本を見つめ直す必要がある」という意見でまとまり、D F Sの日本語版としてD F S Jが発足したわけです。以下にD F S Jの参加方法と簡単な説明を行います。

\*\*\*\*\*

DFSJ (Dead Fukuzawa Society Japan Forum) は無編集の知的討論の場で無料で参加できます。参加の仕方は2つあります。どちらでも結構です。

1 [dfsj-request@mail.jca.ax.apc.org](mailto:dfsj-request@mail.jca.ax.apc.org)

宛に

subscribe

とだけ書いて送付する。または

2 [majordomo@mail.jca.ax.apc.org](mailto:majordomo@mail.jca.ax.apc.org)

宛に

subscribe dfsj

と書いて送付する。

どちらでも可能です。

DFSJ フォーラムは日本語によるディカッショナリストです。カリフォルニアを拠点として日本のことに関して英語で活発な議論を行っているD F S (Dead Fukuzawa Society) の日本語版です。インターネットはほとんど英語によって

運営されており、英語を母国語としない人がなかなか参加しにくいとも考えられます。日本語で自由に討論し、ひいては日本人知識人と外国の知識人が自由にネット上で相互交流できるようになればと願ってこのリストが発足しました。1997年2月11日、まさに「建国記念日」にDFSJを立ち上げることができました。奮ってご参加下さい。

リストに投稿する方法は以下の宛先に電子メールを送付するだけです：

[dfsj@mail.jca.ax.apc.org](mailto:dfsj@mail.jca.ax.apc.org)

1 DFSJフォーラムは無編集のリストです。参加者の方の良識によってこのリストが素晴らしい議論の場になることを願っております。

2 DFSJフォーラムは日本語によるリストですが、日本語による要約があればどのような言語でも受け付けます。

3 DFSJフォーラムが主に取り扱うテーマは

- \* 20世紀の日本
- \* 20世紀の日米関係
- \* 20世紀のアジア太平洋問題
- \* 日本人知識人と外国の知識人との架け橋
- \* 様々な情報交換
- \* その他

です。しかし、これだけに限定せず、様々な分野でご活躍の方が日本語で活発な議論を交わして頂けることを期待致します。

4 DFSJフォーラムの精神に反すると思われる行為を故意に繰り返し行った場合には注意を促すこともあります、それでも聞き入れられない場合には管理者の判断により参加をお断りすることもあります。

5 DFSJフォーラムに参加したい人は

Majordomo@mail.jca.ax.apc.org 宛に subscribe dfsj をご送付下さい。

または

dfsj-request@mail.jca.ax.apc.org 宛に subscribe とだけ書いてご送付下さい。

DFSJフォーラムから抜けたい時は Majordomo@mail.jca.ax.apc.org 宛に unsubscribe dfsj [電子メールアドレス]をご送付下さい。

6 ご質問・ご意見などございましたら以下のところへメールをどうぞ。

sugita@neti.com

または

sugita@uno.infosphere.or.jp

または

tel@ijk.com

それではリストでお会いしましょう。

\*\*\*\*\*

アメリカを中心に「情報革命」が急激なスピードで進行しています。10年前では考えられもしなかった膨大な情報および情報交換が研究室、図書館、書斎のパソコンを利用してできるようになりました。勿論、質の高い論文を書いたり教育をするためにはこういった情報をいかに分析していくかという能力が必要なのは言うまでもありません。しかしながら、このような情報革命の波に乗るか乗らないかで、入手できる情報量に雲泥の差が出ます。現在ほとんどのオンライン学会や学術リストは無料で行われております。この機会をフルに利用して研究・教育の質を高めていくと同時に日本の学問的蓄積を少しでも世界に発信することができればと願っております。